

蒲江地区

(大分県佐伯市)

計 画 期 間 平成 16 年度 ~ 18 年度
 面 積 130ha
 交付対象事業費 483 百万円
 市人口 80,737 (地区内人口 2,077)

ポイント 交流による地域文化の再発見

地区概要 まちの駅 (観光交流センター) を整備することにより、人的交流の活性化と中心市街地の賑わいの再生を図る。

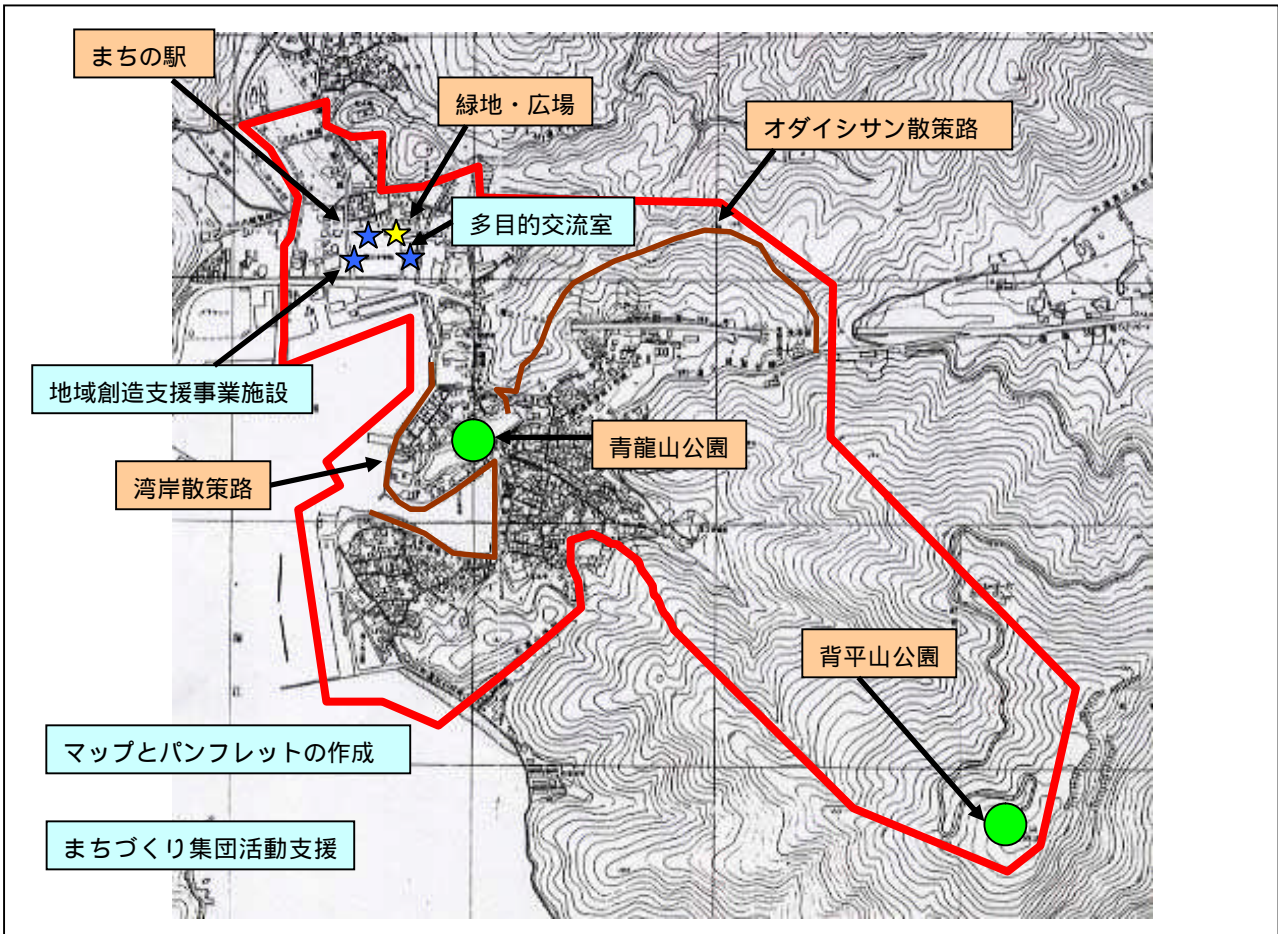
目 標 廃校グラウンドを活用し、観光交流拠点を整備することにより、新しい産業の創出を図る。
 地区の観光資源を活かした道路の整備をすることにより賑わいの再生を図る。
 地域コミュニティの活性化を図り、安全・快適に暮らせる生活環境を創出する。

指 標
 物産館や交流情報発信施設の建設と散策路、公園、広場等を総合的に整備することで、中心市街地の活性化を図り、地区の交通量の増・住民の満足度の向上・地域来訪者数の増・地域住民の地域活動への参加者数の増を目標とした。

地区の交通量 (7H)	2,750	H16	5,500	H18
満足度	-0.02	H14	0.30	H18
地域来訪者数	276,000	H15	390,000	H18
環境改善活動へのボランティア参加者数	25	H15	40	H18
地域住民のまちづくり会合数 (年)	2	H15	6	H18

事業内容

基幹事業 (449 百万円) 公園 (2 箇所 12,000 m²)・地域生活基盤施設 (緑地、広場 6,700 m²)
 ・高質空間形成施設 (散策路 2 箇所 2,178.7m)・高次都市施設 (まちの駅 760.52 m²)
 提案事業 (34 百万円) 地域創造支援事業 (まちづくり集団活動支援・マップとパンフレットの作成)
 ・地域創造支援事業施設 (9.2 m²)・多目的交流室 (52.71 m²)



地区の現況と課題

旧蒲江町は、地理的条件や交通網整備の遅れ等から、素晴らしい海・山等の豊富な観光資源や快活な気風があるにもかかわらず、外との交流がなされずにきた。また、都市部から来訪する人は公共交通を利用しづらく、駅等の「まちの顔」となる交流施設等がないため、町の情報や資源を得ることが難しい。平成14年度に蒲江中学校が廃校になり、校舎やグラウンドが当時のまま残っているが、町の中心に位置することから活性化に向けた活用が期待され、検討が進められている。このため、蒲江の顔としての拠点整備や、貴重な地域資源等を活かすためのアクセス整備を進め、中心市街地の周遊性を確保することが急務となっている。

基幹事業の特徴

公園の整備

地区のシンボルである青龍山公園（市街地中心部）を整備し、地域の憩いの場所として背平山公園（里山の公園）を整備する。背平山には、バイオトイレを設置する。

地域生活基盤施設

中学校跡地を利用した緑地と広場整備。

高質空間形成施設

住民や観光客が蒲江の自然と歴史を体感できる湾岸沿いと里山の散策路整備。

高次都市施設

中学校跡地の緑地と広場に隣接した場所に観光の拠点施設の「まちの駅」（観光交流センター）の建設。

提案事業の特徴

地域づくり集団の活動支援

「蒲江浦づくりの会」等の活動支援（地区湾岸清掃デー・浦づくりシンポジウム・背平山ツバキ祭り・蒲江キャンドルナイト・屋形島海岸清掃（離島）・研修視察等）

マップとパンフレットの作成配布

蒲江地区と旧蒲江町をエリアとした散策マップの作成配布。「蒲江の干物」・「養殖漁業」・「ヒオウギ貝」の3種類のパンフレットの作成配布。

計画策定プロセス

物産館建設推進協議会との協議

平成16年2月に発足した「物産館建設推進協議会」と物産館を中心とした観光・交流・地域連携等のあり方について協議を進め、都市再生整備計画に反映させた。

蒲江地区まちづくり委員会の設置

漁協・商店街及び住民からなる委員会を設置し、漁港の原風景を活かした観光方策を検討の上、整備計画に織り込んだ。

まちづくり組織との意見交換

「蒲江浦づくりの会」と意見交換を行いながら整備計画の具体化を図っていった。



まちの駅（観光交流センター）



背平山公園とツバキ祭り



浦づくりを考えるシンポジウム



着工前



完成

湾岸散策路



着工前



完成

オダイサン散策路